

第8回サッカースタジアム検討協議会

三浦会長

それでは時間になりましたので始めさせていただきます。年明け1回目ですので改めましてあけましておめでとうございます。昨年ずっとこの会議で議論を進めてまいりまして、ある程度進行してきたかなとは思いますが、まだまだ私達にとって議論すべき課題は残っていると思っております。今年秋に向けて更に深めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。新年早々お忙しい中、集まっていただきありがとうございました。ただいまから、第8回のサッカースタジアム検討協議会を開催したいと思っております。鶴野委員は所用により遅れられるということですので、このメンバーで当初は進めたいと思っております。

前回はエディオンスタジアムに行きまして、まずそちらの見学を行いまして、当初、これがスタートした時の現在のスタジアムでのサッカーをするにあたってのマイナス点ということについて、実際に現地を見て皆さんの方でも認識ができたところだと思っております。あとアクセス等については、実際の試合がある日ではなかったのですが、どのような状況であるか、中には最寄りの駅から歩いていただいた方もいらっしゃるの、その辺りも実感できたのかなと思っております。それらを踏まえてその前の回からの続きとして、それぞれの候補地についてどういう状況にあるかということで、こちらの方で説明を受けた後の質問を投げかけることによって、それぞれの候補地の置かれている状況について理解を深めていったと思っております。そういった中でとりわけ色々な法的な制約或いは土地としての限界性等々見ながら意見交換を行いまして、一応、今の段階においては候補地が5つということになったかと思っております。中央公園の自由広場、芝生広場という場所、それから旧広島市民球場跡地、広島みなと公園、それから広島西飛行場跡地、それから現位置であります広島公園、この5か所になっております。今後は、それぞれの候補地においてスタジアムを建設した場合に何ができるかということを考えていくという段階になると思っております。そういった中で当然スタジアム建設にあつては、場所の事もさることながら費用面でどうそれを確保できるかということは、ひとつの焦点だと思っております。そういった中で、現在、大阪の吹田市の方でガンバ大阪が新しくホームスタジアムを建設ということに取り組みされております。ここは実は日本で初めて寄付金を基本としてスタジアムの建設ということに取り組みされているということで、私自身もこの検討協議会を始めるにあたってガンバ大阪の取り組みについては着目をしていたところでした。今回、このスタジアムについて、私達もどうやってそのようなスキームができたのかといった事を知ることは十分今後の議論を進めるなかで参考になると思っております。そういった中、今日はガンバ大阪野呂社長に来ていただきましてお話を伺えるということですので、どういう状況でそういったものができたのかということについて私たちが理解を進めていければ良いと思っております。お忙しい中、野呂社長来ていただきありがとうございました。11時までということですので、時間限られていますので、内容濃く進めていければと思っております。それでは吹田市のスタジアムの建設について説明をお願いしたいと思います。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

皆様おはようございます。ガンバ大阪の代表の野呂と申します。よろしくお願ひいたします。まず、サンフレッチェさんの連覇おめでとうでございます。ガンバ大阪は残念ながら去年J2に降格しまして、優勝で、1年でJ1に復帰することができました。これは前置きでございます。

今日はですね、「日本初『みんなの募金』でつくるサッカースタジアム」これを30分くらいで説明をしたいと思ひます。完成図がほぼこれでございます。これをどういうスキームでつくるかということは今からご説明をいたします。

まず入り口として、Jリーグの理想のサッカースタジアム、あるべきスタジアム像は何かということで1枚にしました。お客さん視点からしますと良質な観戦環境、良好なアクセス性とこの二つがございます。そして地域性からしますとコミュニティへの貢献ということでございます。まず良質な観戦環境に関しましては、臨場感を持って試合を観戦できるサッカースタジアムであるべき、また、観戦席が屋根に覆われていること。そして全て個席で落ち着いてゆっくりと観戦できること。アクセスに関しましては公共交通機関からのアクセスの良さ、また、車で来場の方もいらっしゃいますので駐車場の完備、それと地域の交通事情に即した設備の充実ということでございます。また、コミュニティへの貢献に関しましては、地域のシンボルとなると、それとコミュニティ形成など住民満足につながる機能を有することということでございます。

既存のスタジアムの課題、Jリーグ全体のスタジアムの課題ということでございます。ひとつは陸上競技場兼スタジアムが非常に多く、サッカーを楽しむためにできていない、トラックがございますので非常に遠いということですね。それと自治体さんが建設したスタジアムが多くてJリーグの要望がなかなか反映されていないということ。またFIFA、日本サッカー協会の新基準、基準がどんどん更新されていますけども、これを満たしていない。例えば屋根とか導線とかですね。また、規模が適切でない、大きすぎたり小さすぎたりと、例えば、日産スタジアムは7万1,000人入りますけど、普通の試合にしては非常に大きいですし、J2ですと1万人ぐらいの規模のスタジアムしかないとかですね、色んなことがございます。また、建設費、維持費が大きく負担になる。環境配慮、防災対応が不足していますというのが全体の課題です。右の方にガンバ大阪が今課題としているところでございますが、やはり万博記念機構の陸上スタジアムをお借りしてサッカーの試合を年に二十数試合やっているという環境でございます。屋根がほとんどございませぬ。210席で1%屋根がありますが吹き込みますと全部濡れます。20人のVIPフロア以外は全部濡れる環境でございます。また、老朽化ということで、万博が1970年に行われました、その時に着工しまして72年に開場ですので、既に42年以上経っております。収容人員が2万人といってもゴール裏は立ち席ですしベンチシートですので個席ではございませぬ。よく入って1万9,000人が難しいぐらいの収容人員でございます。また、自前の建設資金がないということでございます。

このスタジアムの建設のしくみでございます。従来、ほとんどは建設地は自治体、主体も自治体、建設費は税金、所有者は自治体、維持管理も自治体あるいは第3セクターというのが従来というか今の状況ですが、今回のスキームは、建設地は自治体が主体がスタジ

アム建設募金団体、みなし法人ですけどこういうものを作りました。建設費は個人、法人からの募金で賄うと、正確に言いますと国からの補助金もございます。所有は自治体、これは完成したら自治体さんに寄贈すると、後でスキームをご説明します。あと、維持管理は指定管理はガンバ大阪が受けるということで議会で可決をしました。それも少し図で表しますと、実は、国税局に国等に対する寄付金の制度を申請しまして認可を得ました。これは募金団体をつくりまして、この募金団体は、関西財界から関西経済連合会の歴代の会長さんが二人、サッカー界から初代のJリーグチェアマンの川淵さんと三代目四代目のチェアマン。あとはガンバ大阪が事務局になりまして募金団体を作りました。ここが地域の皆様から建設資金を募金で集める。完成しましたら吹田市さんへ寄贈し公共施設としてずっと自治体に持っていただくと。先ほども申し上げたとおり指定管理はガンバ大阪が受けると。49年11か月の土地の賃貸契約をしましたので、その間は指定管理としてきちっと運営管理を見なければいけないということでございます。

流れでございます。まず募金団体を作りましたと、これは2010年の3月ですからもう4年くらい前に作りまして、あとは自治体にさっきのスキームを認可いただくのに時間かかりまして2011年12月までですから1年と9か月かかっております。その間、色々な根回しもしまして議会で先ほどのスキームを認めていただいた。そして、2012年3月に国税局から認可をいただいて2014年3月まで2年間募金活動しますと。そして募金活動している最中に2013年12月にスタジアム建設の着工の起工式を行いました。そして完成は2015年の10月竣工予定でございます。こういったことで完成しましたら自治体である吹田市さんに採納いただくというのがスキームでございます。

国税局に認可をいただいたことはどういうことかと言いますと、税制上の優遇措置を受けられたということでございます。法人からは全額損金算入の扱いができると、簡単に言いますと全額経費として認められるということでございます。個人はふるさと寄付金というのを適用していただけることになりましたので、所得税等住民税が大幅に控除されるということでございます。ちょっと絵が描いてございます。真ん中が寄付者、自分が例えば5万円を募金団体に寄付をしますと領収書を募金団体が発行いたします。その領収書を確定申告の時期に募金をしましたと申告すると、本年度の所得税が控除されます。ややこしいですが、住民税は来年度払うべき住民税から控除されます。大変難しい手続きですけども5万円を寄付したらかなりの金額が戻ってくるというのが、お手元のパンフレットを見ていただきますと、A4ヨコのふるさと寄付金の例を見ていただきますと、例えば年収500万円の方が5万円を寄付した時に3万2,350円税控除がされます。年収700万円の方が5万円をした場合は、なんと4万8,000円税金が控除されます。実は、5万円寄付していただいたらパンフレットにも書いておりますけど、ネームプレートスタジアムで永久に掲出いたしますという特典がございます。こういったスキームで皆さんの募金を募るということにいたしました。

これは募金団体の先ほど申し上げたところでございます。特に川淵初代チェアマンを筆頭に三代目の鬼武チェアマン、大東現チェアマン、3人のJリーグチェアマンに入っております。

今から少し詳しくなりますけども、建設を後押しした要因が3つありますけども、その

ひとつです。建設完成後まで長期的な自治体との連携が不可欠です。今日は自治体の県や市の方が来ていらっしゃると思いますが、スタジアムを建てる時に行政との関わり合いがもの凄くございます。まず1番目、自治体の中での推進活動です。そもそも建設に関わる諸手続き、これは役所の中での各部門間での調整が非常にいります。それと周辺との開発との調整連携ですね、これは府の道路だったり、市の道路だったり、色んな所と関係しますので、とくかく自治体と二人三脚でやらないといけません。それと地域での活動ですので、地域住民との関わり合いですね、地域の皆様にはこれだけお役に立ちますよということも説明しなければいけませんし、一方、渋滞を起こしたり、騒音問題とか色んな環境破壊の問題がありますので、この辺を全て説明しないとはいけません。これは大規模開発ですので環境アセスメントにかかりました。2012年の4月2日に申請しまして2013年の9月14日までかかりましたので、実に17か月かかりました。これは主に道路交通渋滞の問題、これが1番です。それから騒音振動の問題、それから景観の問題、こういったものを全て解決をしないとはいけません。ここにあります完成後の運営に関しましては、今から指定管理として詰めなければならない。サッカーでの活用、公共施設としてどれだけサッカー外で使えるのか、それと指定管理者が赤字に陥ってはいけませんので黒字経営を行われなければならないと、そのための条件整備ですね、今無いような条例も整備しないと駄目なのではないかと思っています。右の方、私どもがどのようにしてこれを取り組んだかと申しますと、はじめ、全ての行政縦割りで8部にまたがるところを個々に行っていました。とても大変です。是非、役所の皆様には、窓口を一本化して欲しいということで専任部局を作っていただきました。賑わい創出推進室という所ですけど、ここに次長さん以下、技術系の方、文科系の方3名入っていただいて、この3名が専属で庁内をコントロールしていただいた。庁内ばかりではなくて、警察、消防それと各種民間の鉄道からバスいわゆる交通インフラのところまで全て担当の方が募金団体に付いていただいた。当然、住民説明会、34ある自治会の会長さんの会合に進捗状況を毎月報告してまいりました。ということで自治体と募金団体が一体となって、同じ組織として色んな活動をしなさいといけません。結局はそれができましたので進んでまいりましたということでございます。

あとは規模の話とコストの話です。実は私どもスタジアムは最終140億円の募金を集めましょうということでございますが、今日現在は113億5,000万円、うち30億円はt o t oの助成金でございます。まだ26億5,000万円ほど集めないといけません。参考ですけど豊田スタジアムは4万5,000人の収容で450億円近くの金額です。近くの所ではノエビアスタジアムは3万人で230億円、これは完全にドームで開閉ができます。私どもスタジアムは開閉はできません。スタンドだけ屋根があってピッチの部分は屋根がないということで安価でございます。こう見ると4万人の規模にしてはお値段が安いのは募金でつくるのでゼネコンさんにご協力いただいているということでございます。ガンバだけの試合でしたら3万人で十分でございますが、4万人に拘っているのは、やはりワールドカップクラスの試合をしますと4万人以上必要で、西日本ではサッカー専用スタジアムで4万人以上の規模が無いので、これに挑戦しようと、3万人だったら今の金額でもできるんですけども、4万人拘っているのが現状でございます。

少し参考ですが、国からの補助金をいただきました。1番上に日本スポーツ振興センタ

一いわゆる t o t o の助成金，結果的にはこれをいただくことになりました。上限 30 億円の新設のスタジアムに適用できます。これは W 受給は不可ですので，これを取ったら他は取れない。他にも国交省さんあるいは内閣府の補助金がありましたけども，一番大きな金額の t o t o さんの助成金の 30 億円をいただくことになりました。あとは参考にさせていただければ幸いです。

場所なんですけど，万博記念公園を皆さん名前くらいはご存じだと思いますけども，1970 年万博が行われた跡地です。ちょうど 264 h a という大変大きな敷地でございます。中国自動車道から上は自然公園とか国立民族博物館がございます。ここへの来場は年間 180 万人くらいです。それ以外の所，エキスポランドというのがありましたけども，2007 年から閉園してしまっていて，その後三井不動産さんが複合商業施設をつくられると，私どもこの紫のこれが予定地でございます，今のスタジアムはこちらでございます。今，ガンバの練習場にある所に新しいスタジアムを建てるということでございます。参考に三井さんの複合施設のことをかいてはいますが，ショッピングセンターとエンターテイメントとの複合でございます。店舗が 300 ございます。内陸型的水族館，映画館，130メートルの観覧車，これは日本一になっております。太陽の塔が 70メートルですからほぼ倍くらいの観覧車ができるということでございます。従って何が言いたいかと申しますと，スタジアムがポツンとできるのではなくて，隣接に大きな複合施設ができます。三井さんは年間 1,700 万人来場の予定で，平日 4 万人で土日は 6 万 6,000 人と，私どもスタジアムですと最高で 4 万人しか来ませんので，三井さんは毎日 4 万人来ているということになります。完成時期は三井さんが 2015 年の夏，私どもは秋，ほとんど同じ時期に複合施設ができるということでございます。

あと経済効果ですが，この分野の一人者の関西大学の宮本先生に試算をしていただきまして，まず建設の経済効果が 275 億円程度，建築の 2 倍くらいの効果がある。これは観光客の流入とか国際大会の誘致とか直接消費による経済効果を表しています。初年度は 81 億円程度で，2 年目以降が 9 年間で 600 億円，合わせますと 10 年間で 960 億円になります。そのうち半分近くが地元の吹田市さんに 411 億円の効果がございます。試算だとは思いましたが，実際，埼玉スタジアムの方は，武蔵野銀行さんが弾かれ，2002 年から 10 年間で 2011 年までの効果が 1,400 億円強ということで，これは実績でございます。6 万 3,700 人の収容なので 1.5 倍くらいですので，金額もだいたいぴったり合うので，この数字は正しいのかなと思っています。

あとはちょっと蛇足的なのですが，どんなスタジアムつくるのですか，今までの大事なスキームであります。これはご参考です。お客様，選手，地域にとって多様な観戦者への付加価値サービスをしましょう，日本初めてになるヨーロッパテイストのスタジアム。スポンサー，メディアの皆さんに対しては，スポーツによる地域の貢献をしましょうと，大阪元気プロジェクトというのを展開しております。あと，施設を持ったり運営したりする立場からすると負担の少ない維持管理ということで安心して安全で長持ちであるスタジアムということのコンセプトでございます。

ちょっとデザイン的な話もありますけども，この格好ですね，4 人のサッカー選手がスクラムを組んだ格好で，構造的にも丈夫でございます。デザイン的にもいいなということ

でこのデザインにも決めました。それと女性にも共感あるデザインということで、正面から見ますと屋根が和服の襟が重なったような格好していきまして、今はやりのおもてなしというデザインにしております。シンプルでコンパクトなスタジアム、実は4万人の規模にしては床面積が最少です。間口が210m、奥行き160m、高さ40m、たぶん4万人の規模では面積も高さも最も低くコンパクトな設計で、従ってお金も安い。構造的にも屋根も軽いので耐震構造も大丈夫でエコであるということでございます。またあとでエコの話もします。

全体的にはパンフレットにもございますけども、ホームのゴール裏からアウェイのゴール裏を見た感じです。真ん中に黄色い部分がガラス張りのVIPフロアがあって、その前に出るとバルコニーがあるという形になっております。

ピッチについては、FIFAの基準でゴール裏は10m以上とりなさい、スタンドからタッチラインまでは最低7mとりなさいということになっているので、私どもは10mと7mという設計にしました。スタンドも1m50cmしかございません。普通、ヨーロッパは、飛び降りるといけませんから3m、4mで、柵を付いたり溝を作っておりますけど、私どもは飛び込まない前提で1m50cmという低いスタンドにタッチラインが7m、たぶん公式競技場としては世界で一番ピッチに近いスタジアムという設計でございます。

ピッチとか屋根を抜いたらスタンドがこういう感じで見えますというイメージでございます。

先ほどちょっと申し上げましたけど、ヨーロッパテイストのVIPフロアと、ヨーロッパは特にブンデスリーガとかプリテンズリーガとか、これがほとんどメインです。地域の社交場として試合の2時間ぐらい前から飲食もフリーでできるといったようなフロアございます。これは3面しかございません、ホームのゴール裏はVIPルームありません。というのが、一面でサポーター応援したいということで、1万人が一体となってやりたいということで、自分の所のゴール裏だけはVIPルームはございません。これは始めはあったのですが、サポーターが絶対嫌だと言うので、代表戦やった時に1万人応援できないようなスタジアムは駄目だということで押し切られましてVIPフロアは無くしました。

屋根の話なんですけど、屋根の内側がフラットというのはほとんど無いんです。水平でフラットで雨も吹き込まないし高さ31mしかございません。非常にピッチに近い。照明は普通ですとHIDとかナトリウムか水銀の高圧の灯光器というのを付けるのですが、世界で初めてなのですが、LEDDの灯光器を開発中でして、あと1年半ぐらいでできると思うのですが、LEDにしますので年間1,500万円のランニングコストが下がります。そのためには屋根が高いと届かないので、結局は低い屋根でLEDを付けるということにもなっております。

先ほど申し上げました7mのところ、ベンチをスタンドの中に入れて、ものすごく幅が狭く、奥に選手が控えるという格好でございます。

これがコンコース、正面から階段あがりますといわゆるビルでいう3階にあがりますと、3階はコンコースが一周、幅8mで600mのコンコースです。これはぐるっと回れるようになっています。ですから、あがった瞬間コンコースに立つと全てのピッチが見れるという格好です。従って、車椅子の方も全部で300席、車椅子の方が一番前で観戦できると

いう設計でございます。

これ今のところですね、トイレとか売店とかあって、それを別にしてコンコースが8 mあるということです。

これはちょっと蛇足ですけど、先ほど言ったバルコニーシートで、高さも距離もぴったりの位置でVIPの方には観戦いただくと、VIPの個室がメインで、左が10人～20人ぐらいのVIPのフロア、右は最大300人が入れる大きなVIP室という設計にいたします。

あと、蛇足になりますが、環境配慮。CASBEEのSランクですと難しいんですけども、このランクが最高のビルの仕様でございます、CASBEEのSを取るべく、屋根には太陽光発電、屋根の三面にソーラーをはりまして300kw、戸建ていうと140戸分の発電ができます。南の屋根だけはソーラーではなくてガラスにしました。これは芝に光が直接当たる、芝は光と雨と風が通らないと育ちません。スタンドの下、全部50cm空くようにしています。風がどの方向からも入る。試合の時はシャッターで締めるということも考えています。雨水の利用ということで、雨を浄化しましてピッチに撒く、あるいはトイレに使うということです。それと先ほど言いました自然通風をするということでございます。エコスタジアムということで、実は書いていませんが、国土交通省さんの超CO2先導事業というのに去年6月に応募しまして、見事、補助金が2億円付くことになりましたので、それが入ると割とまたゴールに近づいたということです。

最後にポイントですけど、実は、防災拠点として機能を持ちましょうということで、飲食もあり備蓄もします、4万食～5万食で、有事があった時には対策本部をこのスタジアムの中に設けます。それと備蓄倉庫があります。ソーラーパネルがありますので、実は長期で300人が1か月ここに滞在ができます。短期ですと800人で10日間ということで、もし何かがありましたら防災拠点とするというのが吹田市さんとの合意でございます。

あとは皆さんに試合の無い時は解放ということで、公共物ですので会議室とか研修室に使ってください。あるいは夏祭り、秋祭り、運動会に使ってください。あるいは企業の展示会、先ほど言ったコンコース、車でしたらマツダさんでしたら100台コンコースに並びますので、企業の展示会とか食の博覧会とか色んなものにお使いください。それと300人のVIPルームではサッカー好きの方がウェディングパーティーをしましょうとかですね、今、色んなことを考えております。

以上雑駁ですけども概要でございます。ちょっと超過しまして申し訳ございません。

三浦会長

ありがとうございます。非常に興味深い内容を説明していただいたのですが、色々質問したいところがあると思いますので挙手をお願いしたいと思います。

小谷野委員

現在、寄付金が目標額の8割ぐらい集まってきていると思うのですが、113億円集まっているという事ですが、企業と個人の割合はどれくらいですか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

ほとんど企業です。個人は3億円です。金額ものすごく少ないですけども、1万円とか、少ない方は100円とか、そういうのを含めまして全部で延べ人数が、1万6,000人くらいですね。1万6,000人くらいで3億円。あとは、企業さんが340社ほどで80億円です。

小谷野委員

t o t oの助成金を得たということは、都市公園法の方ではなくて、いわゆる普通の商業施設等を作るという。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

はい、大規模スポーツ施設整備助成ということです。

三浦会長

今の部分なんですけども、元々、土地は吹田市ということですね、元の土地の利用の状況、都市計画法上での用途地域は何だったのでしょうか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

土地自身は独立法人万博記念機構の持ち物で、地盤が吹田市の上に建っていますけども所有者は万博さんで、ちょうどスポーツエリアの所です。その土地を吹田市さんが万博記念機構から借りる、それを指定管理者が管理運営するというスキームです。

三浦会長

元は公園ではなかったということですか、用途地域としては。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

万博全体は公園なんですけども、周辺地域はスポーツ広場になっていますね、公園は公園でしょうね。

三浦会長

公園には分類されていると、けども次はそれを別用途にするということで、用途地域の変更をしたということですか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

手続きはしていないと思います。その辺はプロフェッショナルなことなので・・・。

三浦会長

わかりました。

高木委員

前回、欧州の施設の説明を受けまして、非常に別の意味で感銘を受けたのですが、今日は、ヨーロッパということが出てまいりますね、ヨーロッパはサッカーがナンバーワンのスポーツということで、この大阪吹田市もそれを目指して、もっと家族を巻き込んで、これからのサッカーファンを増やそうという何か大きなコンセプトが、おありのように思うのですが、もう少しその辺を説明していただけたらと。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

今ファンクラブが1万9,000人の方、特にサッカーが好きな方だけがファンクラブに入っておりまして、地元のホームタウンと言われる所、4市があるんですけど、ここで138万人の住民の方がいらっしゃいますけども、やはりファンクラブに入っている方がまだ1%もないんですね、そういう意味ではこのスタジアムを建設することを機に住民説明会もしましたし、各企業さん、商工会議所、ロータリー、ライオンズ全て全部説明会を最低1回はしています。その間にスタジアムが建ちますよという建築物の話だけではなくて、こういった素晴らしい環境なので、皆さん是非観戦してください、新しい座席ですね、ファミリーで来てくださいますとか、団体様の席とか、それから企業の年間シートとかですね、色々なものを提案しかけておりますので、新しいスタジアムをつくるのを機に、お客様開拓と言うんでしょうか、地元の方へのPR、で、ゆくゆくはチケットを買っていただいて年間シートを買っていただくという固定的なお客さんの開拓ですね、これも併せて今やっております。

川平委員

話を聞いて非常に素晴らしいなと感銘を受けておりますけど、元々こういった寄付金方式でやろうとした理由と、そういった構想があって募金団体設立するまでの期間がどの程度かかったについて、この2点について教えていただけますか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

先に期間ですけども、実は2008年に、私の前社長の時から、というか初代の社長からですね、専用スタジアムを持ちたいとずっとみんな思っていたんですが、2008年にたまたまパナソニックに相談した時に、これは募金スキームでやったら建つんじゃないかというヒントを得てですね、CRMとか流行った時期なんでしょうか、その辺で募金で作ろうという風に思って、募金団体を作ったのが2010年の3月ですから、そのスキームを2年くらい試行錯誤しているんですね。ただ今振り返ってコメントしますと、民間だけでつくるとするのは非常に自由度があるようですけど、結局、自治体さんと二人三脚で、半分半分でやらないと建たないですね。一番良いのは、税金でも半分くらいで、募金でも半分くらいで、これくらいの加減がいいのかなと、まあ3分の1とかの話もあるんですけども、全額は厳しいです。140億円を全て募金と国の補助金でというのは、やはり金額が大きいな実感しております。

加藤（義）委員

先ほどの絵を見せていただいて、私たちの夢を実現しておられるんだということで非常に嬉しく聞かせていただきました。募金というのをですね、個人と企業があるんですけども、吹田市だけなのか大阪も含めて大阪近郊、近畿地方ですね、それからいうとですね300社で3,000万円平均の寄付というのはすごいと思うですね、とても広島ではそこまで経済基盤が無いからと思うんですけど、実態は、周辺の都市から見れば割合的にはどうですかね。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

地元の企業さんは300社近くあっても金額は少ないです。やはり100万円とか多くて1,000万円くらいで、大きな金額、億単位でしていただいているのは10社近くあるんですね、これは私どもの親会社であったり大手のスポンサーですね、この方々が億円単位でしていただいているのがベースであって、地元の企業の方は少ないですけど地元だからということで本当に純粋に寄付をいただいている。個人も同じですね、純粋に楽しみにしているから寄付するよという方ですね。

加藤（義）委員

ガンバ吹田ではなくてガンバ大阪だから相当なエリアを対象にしているとは思いますが。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

エリアとしましては、ホームタウンは14市3町までありますので、大阪府の北3分の1くらいですね、北摂と北河内です。そこまで入れますと3百数十万人の人口なんだと思います。

加藤（義）委員

もうひとつだけちょっと、色々レストランとか売店とかですね、指定管理者が運営するようになっていますけど、例えばテナントを募集されているとか、そういうこともあるんですか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

店数は、せいぜい20くらいですけども、今でもガンバ大阪自身がですね、競技場の前で店を20店舗くらいやっているんです。美味しいにガンバのGで、美味G横丁が20店舗くらいありますので、基本的にはその方々に中に入っていたり、新たに公募をいたします。

加藤（義）委員

そういうのは開催日以外でも経営をしていらっしゃるのでしょうか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

たぶん、試合の日には美味G横丁がオープンしまして、試合以外の時に大きなイベントがあれば、サッカー以外でもイベントがあって、先ほどのような祭りをやったりとかバザーとか色々なことをやった時に店舗をオープンしたい。それと常設のレストランは、ひとつ厨房付のものを設計上に入れております。これはほとんど毎日できるようにと、これは選手とかスタッフだけではなくて、近隣の方がいつも来れるような、となりに商業施設がございますので、こちらの皆さんが、ひょっとするとサッカーミュージアムを見てスタジアムツアーに行こうかなという方が、試合のない日でも来ていただけるんじゃないかと。これは欧州型なんです。往年のサッカーの有名選手がスタジアムツアーで案内すると、日に何百人も来ていただけると、これは自分も経験したんですけど非常にいいなと思っています。

加藤（義）委員

きっとテナントの募集も殺到したんじゃないかなと。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

そうですね、初めからだいたい決まっているので、入れないという方が多いですね。

加藤（義）委員

なかなか良い施設ですね、ありがとうございました。

鵜野委員

すいませんちょっと遅参しまして。先ほどの地域イベントのところ、試合の無い時にどう使うかということで、コンコースで色んなイベントをするというのは分かるんですけど、この写真だとピッチの上も使用した地域イベントもできるんですかね。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

もちろん運動会程度だったらできるかなと思っていますし、周りにも練習場もありますし、この本芝じゃなくても周辺でもできますし、本芝はやはり最高のピッチにしておきたいので、あまり荒れるものはちょっと嫌だなと思っています。

塚井委員

おそらくアセスに非常に時間をかけられたということで、となりに商業施設もございませぬので、こちらとの関係で時間もかかったのではないかと思いますけども、「建設を後押しした要因③周辺との一体開発」のページを見させていただきますと、万博記念公園ということで軌道系はおそらくモノレールということになりますよね、それで、具体的にここは駐車場をどれくらい見込まれているんですか、試合の4万人という規模に対して。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

万博記念公園自身には1万台の駐車場があるんです。私ども建てるおかげで1千台減りますので、周辺は9千台の駐車場がございます。特にスタジアム横には1,300台の駐車場が今でもございます。向かいの三井さん17ヘクタールの開発なんですけど、ここに4,100台の立体駐車場をつくられます。たぶん三井さんは自分のところはそれで賄うつもりでいらっしゃると思います。

塚井委員

基本的には軌道あるいはバスも出されるのかもしれませんが、その辺の協議に時間を使われたということですか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

一番使ったのは交通アクセスの問題で、モノレールだけでは輸送人員が少ないんですね、4両しかなくて600人くらいしか輸送できませんので、今でも10分間隔走っておりますが、試合の時は5分間隔にしてもらっているんですね。あとは試合の時は東西南にシャトルバスを出すということでアセスメントは通過しました。

塚井委員

それと今のこの地図の中に現在のスタジアムと書いてあるこの場所は、移転された後、おそらく別の用途だと思うんですが、ここは何か。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

ここは元々陸上で使われているので、そこはそのままです。この私どもスタジアムが使えない時があれば借りることもありますし、2面あると楽ですよ。

塚井委員

取り払ったということではなくて、そのまま残されたということですね。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

はい、そのとおりでございます。

永田委員

貴重なお話しありがとうございました。2点ほどお伺いしたいのですが、サッカーでの使用という形のみに限られているのかということが1点と、もうひとつは、スポーツコミッション関西という形で地域全体でスポーツをうまく街づくりの中に活かしていこうという形で思われているのが関西だと思うのですが、その中との兼ね合いといいますか、機運の高まり感じ取られたというような点で、どういったところがそういったものがあるのかということをお教えいただければと思います。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

まずガンバだけの試合だけ言えば年間20数試合しかありませんので、代表選とか国際大会親善試合というのが何試合かと、あと中高生の全国大会をできるだけここに招致しようと、僕らサッカー協会からお墨付きをいただいております、ここで開催するよと。東京五輪に関しては今から申請しますので、これがおりれば関西でも東京五輪の会場にもなる。といったことで、まずはサッカーですね、サッカーは年に最大50試合くらいできるかなと、残りの300日あまりをそれ以外で使うというのが基本的な考え、それで、先ほどここにございますように、色々な事に使ってくださいと、元々公共施設ですからということでございます。それからスポーツの関わり合いですが、万博自身、サッカーだけではなく、隣にアメリカンフットボールと野球場があります。それに剣道、柔道、弓道と万博公園のまわりは全部スポーツなんですね。従って、スポーツを万博公園のまわりで普及しようという元々のコンセプトに、これだけ国際試合ができるスタジアムを作ると、より一層ここにスポーツのシンボルと言いますか集積できるのではないかと考えて、その旗手となるように、オーバーに言えば関西経済の復興のトリガーになればということでやっています。

野村委員

今、おっしゃったから分かったんですけど、東京で聞いた噂の話なのですが、東京五輪の時に手を上げるというようなことを聞いておったもんですから、それを訪ねたかったんですが。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

実は、東京五輪を招致する時に既に5か所申請しているんですね。昔は大阪だったんですが、震災の件があって仙台で開催するということで東京五輪は申請しました。今の状態ですとそのままですけど、たぶん、会場が少ないので、追加会場の申請をするということで、日本サッカー協会がオリンピック委員会に申請し、それが認められれば追加になると、まだ建ってないので申請できない状況です。

山根副会長

ランニグコスト、維持費の事ですが、借り賃とか、指定管理者としてどれくらい考えておられますか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

これは吹田市さんと、今からの協議ですので、こちらでは試算をしていますが、ちょっとまだ公にはできませんけども、数億円の規模の大規模修繕と普通のメンテナンス費用、それと土地の賃貸料がありますので、何億円かの収入がないと維持運営はできません。従って、収入が少ないようだと、こういうイベントがなかなか収益に繋がらない場合は、例えばネーミングライツとかの収入も得ないといけないかもしれません。これは今からの協議でございます。

三浦会長

今の部分で、建設費を後で払うというのはない状況でのランニングと考えられているということでしょうか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

そうです。完成物をお渡しして、あとは修繕積立とかだけです。そういうランニングで考えています。

三浦会長

そこである程度黒字経営の目途は今のところ試算ではできているということでしょうか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

もちろん黒字経営ですよとなっていないと議会在議が通過できないです。逆を言えば計算上はできているということですね。

三浦会長

その中でサッカーの試合に関する比率はどのくらいになるでしょうか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

ほとんど収入はサッカーのプロの収入で、逆を言えそれで賄えないと、他のイベントで収益をあげると失敗しますよと、先輩の鹿島さんからしっかり助言をいただいていますので、極端な話、サッカーのプロの試合だけで全てが運営できるぐらいのことにしておきなさいと、さっきのネーミングライツも含めてしなさいと、後は皆さんに還元すると言っただけではないでしょうか、プラマイゼロで提供しなさいと。

三浦会長

ネーミングライツの話がでましたけど、それは結構な額ということで考えられているのでしょうか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

そこそこの額ですね。

三浦会長

海外ヨーロッパの事例によるとネーミングライツの期限が凄く長かった、何十年ということですけども、そこはどうでしょうか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

5年とか10年単位ですね、スタジアム全体のネーミングライツもあれば、ゲートが4つありますので、ゲートのネーミングライツとか、これは色んなことが考えられるんです

ね。

三浦会長

かなりの法人の方での寄付があったわけですが、損金算入という扱いをするということで持ちかけられた時の反応はいかがでしたでしょうか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

実効税率4割くらいですからね、その分が控除されるので、それは大きいですけど、ただ1億円しても6,000万円払わないといけないので、そういう意味では、一番は収益企業さんで、こういうものに賛同するようなところですね、この辺はリストアップして優先順位を付けて、それとスタジアム関連でパートナーとなるような会社さんはたくさんいただいていますね。

三浦会長

それはかなり営業されて手ごたえは結構感じられたということですかね。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

一昨年はもの凄く辛かったです、景気が悪くて赤字の状態です。寄付なんかする余裕が全くないというのが多かったのが、去年はだいぶフォローになってきましたね。ガンバがJ1に戻れると分かってからは寄付がドンと入ってきました。

三浦会長

先ほど、北摂、北河内という話がありましたが、大阪の場合でしたら南はセレッソがありますから、中心より北側はガンバ大阪の地元という意識が企業の方にも住民の方にもあるのでしょうか。例えばセレッソに対しての対抗心はあるのでしょうか。そこはそうでもないのでしょうか、向こうは今若手が結構でたりしていますが。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

大いにありますね。セレガールズが出てきて、柿谷とか蛭とか南野とか若手が出てますので、それはそれで非常にいい事ですね。セレッソさんは大阪市南を地盤にされていますけど、企業は大阪市に多いので、募金をいただいた大手のところは大阪市にもありますから、それはセレッソさんが文句言うこともないですし、その辺は共通でやっています。

加藤（義）委員

ふるさと寄付金というのは全国自治体どこでも始まっていますね、この場合にふるさと寄付金の集め方ですが、非常に魅力的な資料があるんですが、これは自治体へのふるさととしての寄付をするのであって、スタジアム建設へというヒモ付ができるんですか。寧ろ自治体全体の寄付金の中からいくらか配分するのか、或いはヒモ付でスタジアム用途に寄付ができるのですか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

皆さん色々解釈があるんですけど、制度が適用されるとこのスタジアムに募金をしたらどこの自治体でも住んでいる所から住民税が控除される、市民税・県民税が控除されるということがふるさと寄付金で、従って吹田市に建てて吹田市に採納しますけど、東京に住んでいようが北海道に住んでいようが、その申請をすればその自治体で控除されるということです。控除がふるさと寄付金適用ということです。

三浦会長

今の件で、このふるさと寄付金の扱いを適用する時に、抵抗があったのかそうでもなかったのか、今後はこの事例があるので、私達がもしこの手段ということになるとできると思うんですけど。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

国税局に認可を得ましたという話をしました。それとふるさと寄付金は総務省ですから、まったく違う省庁なので、実はふるさと寄付金は無理だと思っていたんですね、公共物といっても震災等であれば適用されますけど、こういったものは無理だろうと諦めていましたが、吹田市の税務の方が色々調べていただいたら、総務省に言ってみたらOKかもしれないよというので、諮ってみたらですね、なんと国等に対する寄付金が適用されれば自動的に同時にふるさと寄付金に適用されるということが発見していただいたんですね、知らなかったらそのまま放ったらかしでしたから、そう意味ではラッキーだったなということです。ほとんど例がないのでたぶん駄目と思っていたのですが、結果的には偶然なんですけど見つかりまして、自分自身もしましたらちゃんと控除されていたのでほっとしました。

鵜野委員

収入の先ほどの話の中で、ほとんどをプロのゲームで賄えるようにしておくべきだと言われたんですけど、例えばこのような試算をされているかどうか分からないのですが、損益分岐として何万人入れればだいたいペイできるという数字はお持ちでしょうか。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

そうですね、今の2万人のスタジアムでだいたい1万5千人くらいですね、多い時は75%くらいの収容率でしょうか、これくらいだと御の字ですけど、4万人かける75%だと3万人ですから、ここまで入ると相当収益があがります。最低、コンスタントに2万4千人くらいだとありがたいなと思います。

三浦委員

そろそろ時間ということでもよろしいでしょうか。非常に参考になりましたし、今後も色々とお問い合わせするかと思いますのでよろしくお願いいたします。大変貴重な時間あ

りがとうございました。

野呂代表取締役社長（ガンバ大阪）

最後に一つ、振込用紙もごさいますので、窓口に行って一番端っこが領収書になっていますので、これを確定申告に張っていただければ、皆さま高所得の方ばかりなので、このままの金額がほとんど返ってきてネームプレートが永久に掲出されますので、ただし戒名はダメです、100年先まであるからといって自分の戒名ではいけませんというのが税務署からの指示でございました。

三浦会長

それでは、次の資料に入りたいと思います。資料の2になります。前回の協議会でスタジアムの近くにヘリポート等がある場合に騒音などによって、サッカーの試合をするうえで支障になるのではないかとといった質問がありました。これに関して小谷野委員から、Jリーグが開催される主なスタジアムと近郊の空港との関係を示した資料をいただきましたので、それを見ていきたいと思います。

小谷野委員

西飛行場跡地にスタジアムをつくった場合に、航空規制との関係、騒音との関係という議論が色々ありましたが、その中の議論の一環としまして、飛行場やヘリポートが近くにある所に集客施設をつくと色々運営上も大変なんじゃないかという話がありまして、その中で、実際に我が国のサッカースタジアムの中で、飛行場やヘリポートに近い所ってあまり無いよねという議論がありました。それに関しまして、できるだけ客観的にどうつくるといふのを悩んだ末、それぞれの飛行場の所在地の住所とそれぞれの飛行場から比較的近い所にあるそういう航空設備の住所をグーグルマップで入力しまして、その2点間の距離がどれくらいになるのかということを見るということで、客観性をできるだけあげて、スタジアムと飛行場の距離というのを計算できるんじゃないかということで、作成したのが今回の資料でございます。実際に使っているクラブ名、ホームタウン、スタジアムの名称、形状、収容数がありまして、その右の所にそれぞれのスタジアムの空港等との直線距離で実際グーグルマップで試算した直線距離を掲載しました。これで見ますとやはり概ね5 km、10 km以上離れているのが通常でありまして、近い所がだいたい4つくらいございます。ひとつがですね、1ページ目の上から7番目の栃木SCが本拠地としております宇都宮の栃木県グリーンスタジアム、これが栃木ヘリポートから1.8 km。それから2ページ目の一番上のカタレ富山が使っております富山県総合運動公園陸上競技場、これが2.2 km。それから松本山雅FCが長野の松本平広域公園ですけど、これが松本空港から1.9 kmということです。それで、彼らに実際問い合わせてみたところですね、彼らは試合運営そのものに関しては飛行する本数が少ないので支障は無いけれども、スタジアムに屋根が無くて、改修工事を検討しても高さ制限があつて目途がつかせんと、それから試合開始の各種イベントを行う際も高さ制限や灯光器の向き等の明るさの制限など規制があるということで、今後スタジアムを拡張しようですとか色んなイベントに使おう

とか、或いは屋根を付けようといった話になる時に、松本山雅の場合にはそういった航空規制等の問題がでてきていると、これは直接彼らからインタビューしております。それから3ページ目の一番上のアビスパ福岡が使っております福岡のレベルファイブスタジアム、これが福岡空港から2.3kmということで、我々Jリーグ遠征する中で、このレベルファイブスタジアムが飛行場から一番近いところということで割と知られておりますけども、だいたい2km以上は空いたところになっているというのが現状のスタジアムと飛行場及び航空施設との距離関係でございます。以上です。

三浦会長

何か質問等は。

特に無いようですので、それではもうひとつ参考資料として用意していただいたものがあります。これも小谷野委員からお願いします。

小谷野委員

アクセスの問題等は5つの候補地の中で、横並びで比較していこうという議論がある中で、今回はその議論に先駆けてということで、参考資料という位置付けになったという理解がありますが、とりあえずやらさせていただきますのは、先月、弊クラブの優勝報告会を旧市民球場跡地で行いました。その際に緊急企画という事で、優勝時のセレモニー写真と今年度2014年シーズンの開幕チケットをあげますよという事で、来ていた人からは景品で釣ると言ったらなんですが、QRコードから携帯の方で入っていただきましてアンケート調査をしました。私どもよくシーズンパス等の拡販をする際にダイレクトメール等を情報得るためにこうした企画をやっておりますが、今回は通常我々が解答いただく年齢とか住所とかそういう通常の情報の他に、実際の観戦回数とか今回の優勝報告会に来た時にどんな感じだったのかという状況、それから通常のエディオンスタジアムに年間どれくらい来ているかというような様々な質問項目を入れまして、どういう状況だったのかというのを見させていただきました。それで1万3千人来た中で有効解答数がだいたい10%の1,346人ということで、年齢分布は10代から50代の方まで幅広い層が入ってまいりました。男女比で見ましてもほぼ五分五分ですが若干女性の方が多かったと。それから後援会の会員、非会員の比率ということで言いますと、半々ですね。後援会の中の方が一部シーズンパス等の購入になるということです。今、後援会、ファンクラブの会員はガンバさんの1.9万人より多い2.4万人ということで、かなりファンクラブの裾野は広がっているかと思えます。それで、この解答者の中からどれくらいの方がエディオンスタジアムに頻度いっぱい来ているかということなんですが、5回以上来ている方も6割くらいいらっしゃいますが、年間3回以下という方も3分の1くらいおりまして、かなりライト層とか優勝がらみの試合の時だけ来たというような、かなりサポーターというよりは関心が少しあるぐらいの人というのも結構入っているんだろうなと推定されます。それでは、こういう人達がどうやってあそこの旧市民球場跡地まで来たのかというと、それは括弧6のところですか。これもかなり実はバラけておりまして、路面電車、それから自家用車の方も結構多くてですね、それから路線バスが意外と多く、また、JRの方や徒歩の方もいらっ

しゃいましたが、若干サプライズでしたのは、アストラムラインにそれほど集中しておらず、タクシーの方、バイク、自転車の方も含めて、かなり分散していたというのが今回の一番の発見だったと思います。特定の交通機関に頼らず多種多様なところから旧市民球場跡地に来られていたというのは非常にアクセス面で、この場所の有利さというか街の中心部にあるというメリットというのは、こういうところにあるんだろうなと感じました。それから最後のところで、自宅から会場までの所要時間ということで、だいたい30分未満の方と1時間未満の方を合わせると70%ぐらいになってきますので、かなり1万3千人という方は街の中心部ということもあり、それほど苦勞せずに来られたという方だと思います。それから2時間以上というのは広島の外ですね、実は岡山とか大阪の方からも来た人とかも結構いらっしゃいました。そうした意味で優勝報告会ですら2時間くらいかけて来ようというインセンティブが市の中心部だと結構あるということなんだろうと思います。それから、イベント後にどうしましたかと、周辺経済効果のようなものがもしかしたら考えられるヒントになるのではないかとということで、この質問をさせていただいた訳ですが、会場周辺で食事をしたり買い物をしたりという比率が結構高く、そのまま帰った人と、夕方の4時から始めて5時ちょっと前くらいに終わったという夕刻のなかなか良い時間だったということもありますが、会場周辺で8割くらいの方が何らかの形の消費活動をしていったということで、かなり周辺経済への効果があったのじゃないかなと考えております。それで、この1万3千人の集散した人が帰るまでに捌けた時間は、だいたい10分から15分くらいですね。これに関して前回でも前々回でも市民球場跡地につくった場合どれくらい捌けるのに時間がかかるのだろうかという滞留の議論がありましたけど、過去の市民球場満員3万人来たときでだいたい30分から35分だったと、特にナイターの場合は滞留した人が駅に直行するだけでなく、ここの資料にありますとおり、会場周辺に色々散らばって吸収されたということもあまして、郊外にスタジアムを独立してつくった時に比べて滞留施設等のことについては、それほど深刻に議論しなくても良いのではないかとといった話もありました。そのなかで1万3千人、1万5千人規模でもだいたい10分くらいで、3万人くらいでだいたい30分というなかで、滞留の問題をどう考えるのかというのが今後の議論だろうと思います。いずれにしまして、1時間滞留しているとか2万人入ると1時間半待ちとかいう今のエディオンスタジアムよりも滞留の問題は深刻ではないのではないかとというのは少なくとも言えると思います。以上です。

三浦会長

ありがとうございます。質問はよろしいでしょうか。

塚井委員

ありがとうございます。非常に参考になる資料だったのではないかと思います。滞留の問題は私が言い出したことだと思うのですが、この場所の捌け方そのものについては、実はそれほど心配している訳ではありません。前の球場が建っていた時に難しかったということは無かったと思うのですが、問題は寧ろスペースの方ですね、物理的スペースとして良好なものができるかどうかの方が、若干気にはなっています。と言いますのが今日見

せていただいた万博記念公園の方も、スタジアムの外側のエントラス周辺についてはかなり余裕がある。手元で地図を出して見てみましたが、このサッカースタジアムのあった場所が、もともと何があった場所かよく分からなかったのですが。

三浦会長

サッカーの練習場。

塚井委員

公園ではないということでありまして話が変わってきますが、面積も相当ありますし商業施設にあたってはちょっと色々な土地利用の変更とかの申請もあったのかなという感じもいたしますが、そういう意味では扱いやすい土地であったのかなと。それに比較して以前から周辺のスペースの問題が出てきているということかなと思ひまして、こちらの土地の広さを考えますと、これからの議論だと思ひのですけども、流れるからOKという話ではきっと無いだらうというふうに思ひています。もう1点、アクセスの問題、よくこれだと先ほども思ひたのですが、モノレールを600人で5分ヘッドということは12本走らせて1時間あたり7,200人という計算になります。あとはバスと自動車、しかし自動車も1万台いけないくらいですので、ということはどういう計算になるかという、4万人をマックスということで行きますと、だいたい2万人以上をバス等で運ぶというようなこと計算されたのだらうと思ひれます。このあたりの数字については、アクセスの結果は必ず入手できると思ひますので、事務局の方でどういう数字を弾かれたかをよく見ておいていただきたい。この公共交通機関の輸送力、特に軌道系が一番大事ですけども、軌道系がこのくらいの規模であるにも関わらず、これだけの大きさものが作れるということですので、工夫の仕方かなと思ひます。もちろんそのためには、かなり時間をかけられたということですので、周辺でバスを捌くための計画をキッチリ立てられたのではないかと思ひます。そのための用地も必要ですので、このあたりは別の検討になるのかなと思ひます。少し話が逸れましたけど、歩行者の環境、いずれにしてもこちらの周りだと確かにアンケートにありますように、色んな交通機関が使えるというのは事実です。間違いなく徒歩の方も自転車の方も使えるということですので、場所に応じて違うアクセスの形態があつてしかるべきですから、それはそれぞれ同じ条件で全部試算する訳にはいきませんので、そういう試算をこれから事務局の方にお願ひするのかなと思ひました。

小谷野委員

吹田のスタジアムの駐車場9,000台というのは、おそらく1台あたりサポーターが2人とか3人とか乗り合わせて来ることをかなり想定しているのではないかと思ひます。おそらく1人に1台でシャトルバスだけだと結構しんどい感じがします。これは事務方にも調べていただければと思ひます。

加藤（厚）委員

1点だけご確認させていただきたいのですが、経済効果のところ、もし、お聞きにな

っていられたらですけども、1回の試合で周辺に金額的にどれくらいの経済波及効果があるのかをお伺いしたいのですが。

小谷野委員

この調査そのものでは聞けていないのですけども、だいたい飲食でうちの会場で1回来た人が試合の前後で食べるのはだいたい1,000円とか1,200円くらいのレンジだと思います。おそらくそれは会場で立ち食いみたいな感じですので、私の推測ですが、1人あたりの単価は2,000円とか3,000円くらいのレンジに嵩上げされているのではないかと推察いたします。これ自身は特に聞いている話ではありませんので、あとショッピングに関してはもっとももしかしたら色々日用品とかアパレル等を含めて、もっとレンジが高いかもしれません。ただ、この調査そのものでは残念ながら金額そのものは取れていません。すいません。

永田委員

先ほど加藤先生の話で、経済効果という形で、依然サンフレッチェさんとカープさんの海外の指標でFCI（ファンコストインデックス）というのがございまして、家族4人、要するにお父さんお母さん子供2人という形でどのくらいお金を落とすかということが一般的に海外のアメリカの5大スポーツで全チームで出ている数字がございまして。それでそのバージョンという形で広島の12年度の数値を出したものがあります。簡単にですけど、ちょっと今、正式に細かな端数までは分からないのですが、サンフレッチェさんが28,000円程度、カープさんが22,000円程度ということで、私が計算したものがございまして。これはあくまでも家族4人という形で、これは要するに何をしたかということ、スタジアムの中で落とすお金なので、それ以外で例えばアンケート調査の8でイベント後の予定という形で、会場周辺の食事だとか買い物といった部分は含まれていません。ただ、何らかの1万3,000人のなかの48%と30%、要するに80%が何らかのお金を落とす行動を想定していること自体かなりの経済的な波及効果があるのではないかとということが容易に想像できるかなと思います。それからもう1点、先ほど野呂社長の方からネーミングライツについてお話がありまして、スタジアム自体にネーミングライツという話がありましたが、補足ですが、先ほどゲートでネーミングライツを考えているという話をあれていました。これを詳しく申しますと、スタジアムの中であちこち会場の入り口がございまして、その会場の入り口ごとに、例えばですけどドリンクのメーカーだとかビールのメーカーだとか色々な形のネーミングライツを取るケースが欧米では多いです。更にいきますとシートとかVIPの席・個室だとかいうものでもネーミングライツを使って、要するにそこでのパブリシユメントという形で活用されている所が多いです。またコンコースの回遊性がある部分についてもエリアごとにネーミングライツがあつてですね、色々なイベントが恒常的に行われているというのが海外の事例です。それを意図されて野呂社長がお話いただいたのかなと私は解釈しております。補足の形ですが以上でございまして。

加藤（義）委員

今日ここで、サンフレッチェの方でご用意されたデータの見方なんですけども、これはこれである瞬間をいただいて見た、実際にイベント後の予定と書いてありますけども、サッカーは夜7時から9時までであって、広島球場にカーブがいた頃は、夕方の試合でも昼頃から皆ぞろぞろ出てショッピングとかレストランとか昼食を食べたり、皆集まっているんですね。サッカースタジアムもだいたい7時からだけど、余所を行ってみると、鳥栖だとか、横浜だとか事前にお祭り広場になってくる訳ですね。そういう意味では何時間か前から賑わいがずっと出てきて、球場跡地は街中スタジアムになれば商店も全部それを巻き込んだ賑わいができるだろうと思うので、私はイベント後の予定はあるけども、これは前後でスタジアムが、ある時の想定が今後あるとすれば、相当な効果になるんじゃないかと思うんですね、今まで、サッカーのアウェイの応援にいて色々見学してきたところから見れば。そういう意味でここは見直すことが必要かと思いますが、イベント後の予定として少なくともこの前の1万3,000人集まった時のデータとしては貴重なデータだと思っております。なお、見方としてはそんな見方を今からしていけば、相当なイメージが湧いてくるような感じがしました。

三浦会長

今日は主としてガンバ大阪の新しいスタジアム建設ということで資料提供、説明をいただきました。この点に関して何か今後さらにですね、先ほども途中の段階でも幾つかありましたけども、事務局を通じてなり詳しい情報が欲しいということが何かありましたら、意見等をいただきたいのですが。

小谷野委員

今日は時間の関係で野呂社長自身も説明を端折られた部分かと思うのですが、指定管理者がガンバ大阪単独になった経緯、指定管理者を誰がやるのかという議論については、一番メインの使用者であるクラブがやるという発想もあれば、大多数のスタジアムはそうであるとおおり、行政とクラブ関係の第三セクターみたいなものも結構多いと思うんですよ。指定管理者についてどういう議論が吹田市もしくは大阪府との間であったのかなど。最終的に指定管理者がガンバ大阪になった経緯は知りたいなと思っています。

加藤（義）委員

今日はガンバ大阪の話聞いたのですが、広島にも広島市民球場の良い例がある訳です。そこは全部寄付ではありませんけども、細かい数字は掴んでいませんが、約100億円、そのうち50億円が借入金、あと50億円の半分は市が25億円を出して、そのうちの半分の4分の1を県が出して、その県と同じような十数億円を民間の寄付を募ったんですね、たる募金が1億円。そういう建設資金の集め方の構成もあるよと意味で今日たまたま大阪吹田市の話も聞きましたので、次の時は広島の野球場の建設した時の100億円かかるよいいながら、市は25億円、県等は25億円、あとは借入金ということでやって、指定管理者である広島東洋カーブが使用料で借金を返していくような形をしておられますので、その例もお聞かせいただけたらありがたいなと思っています。

塚井委員

私はちょっと引いた視点から、ガンバ大阪の例がどういう経緯だったのかということの中のひとつだと思うのですが、前の球場の隣接といいますか、前のサッカー場のすぐ近くということ、用地の選定にどれほど苦労されたのか疑問です。今、我々は5つ並べてみようとしまして、隣につくるといった話はあまり位置付けとかコンセプトとかそういうことで悩まなくても基本的には同じような機能がすぐ近くにできるという話なので、現状の問題をキッチリ踏まえてなおせばよいという話になって、そこはあまり深い議論をしなくても済むんですが、我々、それぞれ全然違う場所になってまして、それが非常に頭を悩ますところです。協議会でも常に二つの議論が、それぞれの場所性もあるし、建てるのだったらどうなんだ、そこでどういう機能があるんだ、どういうアクセスになるんだ、建てることを前提にそれぞれ当然考えるのですが、それを見てそれだけでこちらの議論が大丈夫なのかと言うと、例えば、当初、今の現有地について市のまちづくりの方向性との整合性というようなことを議論しましたけども、というようなところについて参考にならないかもしれませんが、例えば吹田市さんの方ではどういうことをお考えになったのか、他に候補になるような対抗馬があったのかないのか、なくて一発で決まりということであれば、建てるか建てないかだけを議論してあそこでやるんだという話であれば、調べてもしょうがない話だと思いますが、違う場所を比較されたということであれば、どういう議論をされたかということは参考になるのかなと思います。

永田委員

この検討協議会のなかで、中間報告をいつの時点で出すのか、3月末の時点で出す際に何を出すのかというのが微妙と言いますか、私自身が把握できていないのですが、今回5か所の候補地があって、それがそれぞれ全てをするなかで、まだ随分と削減していかなければ当然色んな調査もできないと思いますし、全てを経済効果を図っていくというのは物理的に無理だと思います。ただ、経済効果よりも何よりも、まず地域のその場所の方々がどのような意見を持たれているが、我々がそこにつくりたいという意見で全員一致したとしても、地域の方々はNOという決断を下す場合も想定されます。であれば、いったいどこがサッカースタジアムを欲しいと思っているのかという部分も同時進行しながら、更に渋滞という環境アセスメントも当然必要になってきますし、スタジアムから波及される経済的な効果、そういったものも考慮していかなければならないかなという部分もあります。カープの事例もマツダスタジアムの経緯も知りたいと思いますし、先般、国内練習場がすぐ近くに併設されるという形で66億円の建設資金が出されるということですが、その建設費がどういうふうな経緯で広島市から出たのかなと。我々、サッカースタジアムを検討する中で、例えば66億円はかなりの額だと思いますし、どういうふうな経緯でカープさん、スポーツの方に出たのかということを知りたい部分もございます。ガンバ大阪さんの事例を見ると、スポーツコミッション関西というのがございまして、スポーツで関西を盛り上げていこうという機運がかなりあった部分で、その中のひとつとしてガンバ大阪も是非サッカー専用スタジアムもつくれという形で、それをミッションとして色々考えられた

という経緯も存じ上げています。広島自体をスポーツで地域を盛り上げていくという形で、広島県知事のマニフェストの中にも書いておられますし、その中でスポーツをどのような形で活用していくか、今回、サッカースタジアム検討協議会という形でサッカースタジアムを含めている訳ですが、当然、グリーンアリーナ帯というのはスポーツをできる場所でありまして、スポーツの協会とありますし、あのあたり一帯を参加できるスポーツパークという形で考察していくのもひとつの手かなとも感じます。ちょうどカーブの西蟹屋町あたりの場所においてはベースボールパークと言われて開発されておりますので、スポーツパークという形のなかでサッカー専用スタジアム、それから広島県の考え方、広島市考え方というふうに見ていくのと、同時に5つの候補地を選定していきながら環境アセスメントそれから経済波及効果、渋滞、そういった部分との兼ね合いも必要になってくるかなと感じております。以上でございます。

三浦会長

永田先生の意見は、今回の件ではなくて、その先という話でお願いします。

あと、私の方からですが、建設費140億円に抑えたというお話があった時に、おそらく、つくるゼネコン等それから設備、これは親会社の関連でしょうけど設備系に関しては、かなり工夫をされていると思います。それによって総額を抑えた部分があると思いますので、そこをどのように抑えられたのかが分かればと思います。先ほどのLEDによる照明を新規に開発するようなこともありましたけど、そういったことで建設費を落とすことによって後年の運営に対してオンしないという話でしたから、そこが黒字経営に繋がっているのかなと思います。あとはガンバのことですからあまり関係ないと思いますが、アクセスに関しては、あの地域、鉄道系が周辺にJR含めて私鉄、地下鉄もあり、バスターミナルも持っていますので、そこからのアクセスあると捉えています。そのあたりは、一応簡単な事ですから情報として確認をしていただければと思います。今、永田委員の方からありました今後ということですが、次回についてお話しさせていただきたいと思います。今回は、私の方から日本政策投資銀行に5か所の候補地について、海外事例を調べておりますけども、それをベースにとしながらそれぞれの場所でどういった規模のスタジアムが建設できるのかとか、どのような機能が持つことができるのかということについて、私たちが議論する前のたたき台を作っていただこうと思っています。そういった中で永田委員の言われた色んな要素もその場でそれぞれの場所について議論していくことになると思います。おそらく年度を考えると、ある程度その5つの候補地について議論した段階が今年度の取りまとめということで、年度を明けてから更に絞り込みということになるのかなと我々は考えております。そういった意味で、今日のガンバの状況と、それから時間が間に合うかどうかですけど、追加でガンバの事について情報を知り得たうえで、この前、私達が5つに絞った所について、より一段階深めた議論を進めていければと思っています。日程については、十分な資料も作成したいので改めて調整させていただきたいと思っておりますし、連絡を後日させていただきたいと思っております。ということで終わりたいと思っておりますが、最後何かどうしてもということがあればよろしいでしょうか。

小谷野委員

5か所について来月でなくても市の方などにご意見拝聴できればということですが、5か所に絞られた段階で様々な意見がクラブの方にも寄せられているのですが、その中で先ほどの永田先生との話とも絡むのですが、中央公園というのは過去色々スタジアム等の議論があった時に住民の騒音問題等、過去揉めた経緯があると知っている人が多くてですね、私はよく存じ上げないのですが、その辺、過去それぞれの地域の住民の方々にどういう反対があったとか、情報共有を委員の中でしておくべきではないかと思いました。市の中心部といってもやはり中央公園のあたりは高層住宅もある中で騒音問題とか難しいのではないかと、実際にセレッソの方もキンチョウスタジアムの住宅がある側の方は高いフェンスか何かつくって、どうにかして住民の苦情を減らそうとしているけど、それでも大変なんだよという話を昨年終盤のアウェイ戦に行った時に聞きまして、特に中央公園に関して色々言うてくる人が多いんですけども、そういう住民の苦情の問題、過去こういう話があったみたいところは市の方でまとめていただければと思います。

三浦会長

住民がどう考えられているかということは重要なポイントですので、どの段階かは分かりませんが、そういったことも議論の材料にさせていただきたいと思います。

野村委員

サッカーのピッチそのものが東西になると良くないと言われておりまして、南北につくるようにという基本があるんですけど、それは何故かと言うと、夕陽が入ってきてキーパー非常に見えにくくなると、現在のビックアーチがそうなんですけど、非常に見にくい。ということがありますので、方向をよく検討していただきたいと思います。

三浦会長

以上で協議会を閉会とします。皆様、ご協力ありがとうございました。